

政権願、「民主」に回帰



新党協議会に臨む希望の党の玉木代表(中央左)と民進党の大塚代表(同右)(24日、国会で)

国民民主党

民進と希望の両党合流による新党の名称が「国民民主党」に決まった。両党の源流でもある民進党にならぬ、もう一度、政権交代を果たしたいとの願いが込められている。ただ、新党の参加者は限定的とみられ、衆院で立憲民主党から野党第1党の座を奪つのは困難な情勢だ。(本文記事2面)

衆院野党第1党は厳しく

「『国民』と『民主』」は大切な言葉なので重ねた」党名を決めた24日の新党協議会後、民進の大塚代表は記者団にこう強調した。関係者によると、両執行部が当初、目指した党名は「民主党」だった。民主党は2009年に政権を奪ったが、3年余りで下野した。16年に維新の党などと合流して民進党を結成したものの、昨秋の衆院選で立民を含む3党に分裂した。こうした経緯も踏まえ、民進、希望両党内で「原点に戻り、再結集を目指すべきだ」との声が強まったという。一方、希望の若手議員には「有権者から見ると『民進党』に良いイメージはない」として、「新党ゼロ」などの名を推す声もあった。大塚氏と、希望の玉木代表は24日の新党協議会で①国民民主党②国民党③立憲自由党——の三つを有力案として提示した。その後の議論で国民民主党と国民党の2案に絞られた。大塚

民進、希望の両党執行部が想定する日程

4月27日	大塚、玉木両代表が、新党で正式合意
28日	連合メーデー中央大会
5月初旬	総務省に新党の届け出
大型連休後	新党結成の式典

氏らが「民進党」の名称を入れるべきだと主張したのに対し、玉木氏は「国民党」を推した。最終的には、略称として「国民党」を使うことで玉木氏が譲歩した。これを受け、希望は26日にも、民進出身者と松沢成文参院議員ら結党メンバーの「分党」を決定する方針だ。その上で大塚、玉木両代表が新党結成で正式に合意する。総務省への届け出は5月初旬に行った上で、大型連休後に結党式典を開く段取りを描く。民進の所属議員は53人(衆院12人、参院41人)で、希望は54人(衆院51人、参院3人)、立民は63人(衆院56人、参院7人)。ただ、民進の衆院議員の多くは新党に不参加とみられ、新党の衆院議員数は立民に及ばない見通しだ。

小池氏と「決別」

玉木氏

希望の党の玉木代表は24日、結党時の代表で党特別顧問の小池百合子東京都知事と都内で会談した。玉木氏が新党結成方針を伝えると、小池氏は「改革を進めてもらいたい」と激励したという。玉木氏は同日の記者会見で「(小池氏との関係は)いったん切れる」と述べ、「決別」を宣言した。

松沢氏の新党に長島氏参加意向

希望の党の長島昭久政調会長(衆院東京21区、当選6回)は24日、松沢成文参院議員が結成する新党に参加する意向を固めた。近く正式に表明する。安全保障政策や憲法改正への考え方で一致した。松沢氏の間では、長島氏を新党の代表に推す声が出ている。